

# 会 議 録

会 議 名	第3回 環境パートナーシップ会議設立準備会会議録					
開 催 日 時	平成15年10月16日(火) 午後6時00分～午後8時50分					
開 催 場 所	宇都宮市教育センター 503研修室					
出 席 者	準備会委員	青木 章彦		荒木 廣治		大野 邦雄
		大谷津 孟		神宮 由美子		陣内 雄次
		仁平 隆史		藤原 宏史		三宅 徹治
		森本 久子		山形 雅美		
	ワークショップファシリテーター	岡田 雅代				
事務局	宇都宮市環境企画課宇梶統括グループリーダー他7名					
公開・非公開	公開・傍聴人なし					
議 題	<p>議 事</p> <p>(1) (仮称)環境パートナーシップ会議における活動内容の調査結果について</p> <p>(2) (仮称)環境パートナーシップ会議における活動の具体化について</p> <p>(3) その他</p>					

## 発言要旨 【1.(仮称)環境パートナーシップ会議における活動内容の調査結果について】

三宅委員長	議題1,(仮称)環境パートナーシップ会議における活動内容の調査結果について事務局より説明をお願いします。
事務局	では、お手元にある資料の「活動内容の調査結果について(別紙1)」を基に、アンケート調査結果について説明いたします。前回の会議で、ワークショップの手法を用いて協議を行い、個別の活動内容から関連性のあるものをグループ化し、結果として、9つのグループに分類いたしました。ご提案いただいたグループにおける活動は、非常に重要なものばかりであると考えております。しかしながら、来年度から全てのグループの活動を開始することは、現実的に困難であります。そこで、活動を担っていただく委員の皆さんへアンケート調査を実施し、来年5月の会議設立から開始することができそうな個別の活動について点数付けをお願いします、グループごとに集計しました。環境パートナーシップ会議は、環境基本計画を実現するために市民や事業者の皆さまと市が連携・協力をして具体的な活動を実践するための組織ですので、グループごとに集計して点数の高いものが、準備会委員のより多くの皆さま方から、スタートするべきワーキンググ

	<p>ループとしてご賛同いただけたものであると考えております。点数の高いグループの順番は、グラフで示しましたとおり、中心部にShopを作る活動、環境情報の提供・交流に関する活動などの順となりました。この後、活動内容の具体化についてワークショップの手法を用いてご協議いただきますが、その際の参考資料として、アンケートの調査結果と裏面のグループ別提案リストをご活用していただければと思います。以上、簡単ではありますが、環境パートナーシップ会議における活動内容の調査結果についてご報告させていただきます。</p>
三宅委員長	<p>ありがとうございました。ただ今の事務局からの説明について、ご意見がございましたらお願いします。</p>
委員全員	<p><b>(意義なし)</b></p>
三宅委員長	<p>今の事務局からの説明で、スタートさせたいグループの順番がわかりました。本日は、早期にスタートさせるグループと十分に作戦を練ってからスタートさせるグループなどに分類したいと思います。そして、スタートさせるグループについて、具体的に動かすための中身を今回と次回の会議でデザインしていきたいと思います。但し、個別の活動内容によっては、早期にスタートさせるグループにくくり直せる物もいくつかあると思います。そんなことも頭に入れながら協議していければと思います。具体的な作業としてデザインするキャンパスは、お手元の活動計画フォームとで、については今回の会議でできるかぎり記入を終了させ、までを次回の会議終了時には完成させたいと考えております。また、市の予算提出時期が11月中旬と決まっていることから、全速力で皆さんの知恵を結集した、本格的な協働作業を進めていきたいと思います。協議にあたっては、前回と同様に岡田さんにご支援をいただきながら、ワークショップの手法を用いて行っていきたいと考えており、ワークショップの中で、皆さんの意見をいただきながら効率的に協議をしていければと考えております。</p>

<p><b>発言要旨 【2.(仮称)環境パートナーシップ会議における活動の具体化について】</b></p>	
三宅委員長	<p>続きまして、議題2.(仮称)環境パートナーシップ会議における活動の具体化に移りたいと思います。ここからは、岡田さんにご支援をいただきながら進めていきたいと思えます。それでは、岡田さんに本日のワークショッププログラムについてご説明をいただいた後、さっそくワークショップ形式で協議していきたいと思えます。岡田さん、よろしくをお願いします。</p>
岡田講師	<p>別紙2のとおり、本日のワークショップのスケジュール及び、第2回ワークショップの進め方を説明。</p>
	<p><b>ワークショップ開始のため委員全員席移動。</b></p>
岡田講師	<p>では、来年度行うワーキンググループの選択を行いたいと思えます。一人ずつ各自の名前の書いてあるポストイットを持っていただいて、先ほどの事務局からの説明の通り、大きく分けた9つのワーキンググループのアンケート結果で、1番が「中心部にShop(コア)をつくる活動」、2番が「環境情報の提供・交流に関する活動」、3番が「環境学習(プログラム)を考える活動」、4番が「平地林とビオトープ」になります。今日は、来年度すぐに行うために、自分がどのグループで主体的にやりたいかを選んでもらいますが、平地林とビオトープは、上位4つに入らなかった他のワーキンググループと同じように、個別的なテーマであって、もしかしたら、上位3つのグループの中でもできるかもしれないですし、これはこれでやりたいという方がいれば、皆さんの選んだ結果で上位3つに残れば、それはそれで残りたいと思えます。自分でまずやるということで、市民主導でやるということを念頭に一人一個のグループを選んでください。</p>

	各自、壁に張り出してある上位4つのグループの中から選び、各々のポストイットを貼付。
事務局	今日、欠席されている御子貝委員、高橋委員からご提案いただいた物を代わりに貼らせていただきます。
事務局	まず、御子貝委員からは、「中心部にShop（コア）をつくる活動」ということです。高橋委員からは、「環境情報の提供・交流に関する活動」ということです。
	<p><b>委員全員貼付終了。</b></p> <p><b>【結果】</b></p> <p>「中心部にShop（コア）をつくる活動」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・陣内副委員長，藤原委員，森本委員，大野委員，御子貝委員</li> </ul> <p>「環境情報の提供・交流に関する活動」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・神宮委員，三宅委員長，高橋委員</li> </ul> <p>「環境学習（プログラム）を考える活動」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大谷津委員，青木委員，山形委員</li> </ul> <p>「平地林とビオトープ」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・仁平委員，荒木委員</li> </ul>
岡田講師	<p>以上の結果になりました。基本的な人数で判断しますと、「中心部にShop（コア）をつくる活動」、「環境情報の提供・交流に関する活動」、「環境学習（プログラム）を考える活動」の3つになるのですが、先ほど話したように「平地林とビオトープ」は、上記の3つの中でも活動できると思いますので、仁平委員，荒木委員には申し訳ないのですが、もしどこか別のグループに入っていただけるとすればどこがいいですか。</p> <p>仁平委員，荒木委員ともに「環境学習（プログラム）を考える活動」へ。</p> <p>それでは、ワーキンググループの具体的なイメージを出すために、50分程度の時間を設けますので、各グループごとに「いつ、何をするのか、誰に呼びかけるのか」のたたき台を作成してみてください。</p>
大谷津委員	<p>作業に入る前に、平成16年度の予算に関する説明をしたいと思います。先月の25日に、平成16年度予算の説明会が行われまして、その中で、本市の財政状況については、極めて厳しい財政運営を強いられており、既存の事務事業のスクラップなくして新規事業の実施はありえないとの方針が示されました。また、基本としては、平成15年度予算計上額の95%以内の額として要求することなども示され、11月中旬には予算案の提出を求められております。このような中、この環境パートナーシップ会議の形成促進に関する予算といたしましては、現時点では、来年度の設立総会に係る費用を除くと、ワーキンググループの活動費用としては、全体で約100万円が限度であると思われる。なお、この約100万円についてでございますが、ワーキンググループが今3つに分かれまして、1グループ約30万円程度になるのではないかと考えておりますので、この約30万円の予算取りにつきましても、具体的に必要な経費等をみなさんで詳細に詰めていただいて、その活動内容とともに予算計上することが必要となっておりますので、大変忙しいスケジュールではございますが、現実的な観点からのご協議をしていただきまして、11月7日までに事務局に提出していただければと思いますので、よろしく願いいたします。</p>
岡田講師	<p>前回、のびのびと発言しましたが、大谷津委員の説明を受けて、今日は、そういうこともあるな、ということをおきながら、自分達のグループで来年度できるかな、という活動を、今日は予算の方は出していただきませんので、どんな活動を最初に行えるのか、おおよその計画をグループごとに作成していただきます。とりあえず、どんな活動をするのかを各自ポストイットに書いて、いつ頃に活動するのかグループ内で話し合っ</p>

	て、グループの中で来年度どういう活動をするのかということ、この後、1時間位かけて、事前に用意した表に、各自の活動したい内容を書いたポストイットを貼ったりはがしたりして、まとめてみてください。だいたい1時間位経ったところで、表がそれなりに埋まって、「活動計画フォーム」がだいたい埋まってくると思います。そのフォームを基に自然と「活動計画フォーム」を記入していただきますので、まずは「活動計画フォーム」から作成してみてください。
三宅委員長	質問よろしいですか。茂原町の「環境学習センター」のような市の施設を使うということは、あまりお金がかからないと思うんですが、使わせてもらえるのでしょうか。
大谷津委員	問題はありません。
仁平委員	今までのゴミの焼却にかかった経費を、みんなの環境活動によって削減することで、ランニングコストを減らせますが、そういうのを逆にインセンティブを与える何か新しい企画に予算を与えるという考え方はないですか。
大谷津委員	活動を行って、結果がでないとなかなか難しいというのが現状です。
	<b>各グループごとに協議開始（約1時間）</b>
	<b>協議終了</b>
三宅委員長	「環境情報の提供・交流に関する活動」グループ。 別紙3「活動計画フォーム」のとおり発表。
岡田講師	質問があったらお願いします。 システム設計というのは、ホームページのところにあります、細かいところをどうやってホームページに載せていくのかを決めていくのですか。
三宅委員長	情報の中心になるんですが、分かりやすいのはUネットだと思う。しかし、ホームページだけではダメなので、もう少しアイデアを出していきたい。
大野委員	1番目のニーズの把握ですが、これは、今上がっている項目をどういう人たちが求めているのかを把握するんですか、それとも、そういう資質を持っている人を把握するんですか。
三宅委員長	先ほど話したとおり、情報の中心点としていきますから、一番分かりやすい例はUネットですが、そこにどんな情報を載せるのかを把握することです。
大野委員	要望が強いものをどんどん拾い上げていくということですね。
森本委員	「中心部にShop（コア）をつくる活動」グループ 別紙3「活動計画フォーム」のとおり発表。
岡田講師	質問があったらお願いします。
三宅委員長	一番大きな問題になると思うんですが、経済的に成り立たせられるのかどうか。補助金を注ぎ込まなければ存続できないのか、といった問題があると思うがそれはどう考えているのか。
森本委員	そこまではまだ考えていませんが、将来的には市民の理解が得られれば、行政としても考えてもらえると思うので、それまではお金のない所から、できることを探していこうと考えています。
岡田講師	Uブランドというのは、今ある既製品のものでいいんでしょうか。
森本委員	それを選定委員会で選んでいくのですが、どういうコンセプトで選ぶのが問題だと思う。宇都宮独自のものとういことで、信頼のおけるもので、市民側のニーズに答えていきたい。
神宮委員	Uブランドは大賛成ですが、牛乳パックを宇都宮市では力を入れていて、それが再生されているのに、市民はそれを使っていないという現実があるので、ぜひ、宇都宮のマークでも入れたものにして、宇都宮ブランドが欲しいなと思います。それから、宇都宮の

	中のシャッター街ができてしまっているのですが、それを利用するという意味では、だれがそれを借り受けて経済的に活動できるのかということを考えると、それは行政が行わないと100万円以内ではできる訳がないので、ぜひその1フロアを市民活動をしている人たちが利用できるように行政の力が欲しいと思います。
岡田講師	最終的には、来年度行う活動として出していただくものですが、これを1年で完成させるのではなく、3年とか5年計画で存続させて、5年の内の1年目はこういうことを活動するということが現実的かなと思います。他に何か質問はありますか。
森本委員	補足させていただきますが、エコショップとかUブランドとかを作ることによって、環境基本計画の実現に向けて寄与できるかなと思っています。
青木委員	「環境学習(プログラム)を考える活動」グループ 別紙3「活動計画フォーム」のとおり発表。
岡田講師	質問があったらお願いします。
大野委員	ゴミの減量とあるんですが、環境パイロットみたいなことをするんですか。
青木委員	初年度なので、たくさんできないので、今年のモデルか、マイバックコンテスト。今回の場合は一番わかりやすいので、マイバックコンテストかなと。私が考えたのは、古着を使った手作りのものを審査する。それを含めて、その中でリサイクルの稽古をしながらマイバックを進めていく。
大野委員	それはある程度、拠点は決めて広めていくのか。
青木委員	拠点については、実際に活動が始まった場合、事務局に入ってもらおうことを考えています。
神宮委員	マイバックということ声を高くして言っているんですが、なかなかレジ袋が無くならないので、ある大きなスーパーにレジ袋なしの店作りをしてください、と申し出をしましたけれども、小さな団体が言うくらいでは言うことを聞いていただけないので、そう考えると、この団体の活動が動き始めた時に、市内のマーケットにレジ袋を廃止してくださいという申し入れができるような組織になって欲しいと思います。一軒一軒、非常に大きなお金を掛けていると言うんですが、これをやめるとサービスの低下になるので、結局横並びで、あっちがやめればこっちもやめます、ということなんです。ですので、活動が始まった時に、みんなが言えるような組織にして欲しいと思います。
藤原委員	中心部の商店街でもそういう運動をしてもらうというのもあると思う。そういうことをすることによって、お客さんにもそれによってメリットがあると思いますし、あるいはそれをやった商店に対しても、それを評価してあげるシステムがあれば、また違ってくると思います。
三宅委員長	環境学習はターゲットが人だと思うので、活動の成果がどこまでいったかというのが見えないと、達成感が得ないし終わりがなくなってしまう。それでは、人の教育がどこまでいったかというのを何の尺度で測るのかというのがないんです。なかなかこの活動の成果が見えない。では、何があるかという、例えば、宇都宮独自の環境士みたいなものを作って、遊びでもいいので、こういう学習を何回受けたら何点もらえるので、環境士1級とかといったものも1つの方法だと思います。人に対して活動するので、その成果が測れる尺度があればいいなと思います。
青木委員	成果発表会とありますけれども、別の形式ができたらと思っています。例えば、子供環境会議みたいな、市内の小学生などが集まってそういう会議を行って、その周りで大人が見ているといった感じのものなど。あくまでこれは入り口なので、そういう尺度を求めてこれから作っていく段階だと思っています。ここでは、必ず年2回は成果発表をして、成果をフィードバックしていきたいと考えています。それによって、段々と組織が

	出来上がっていけばいいと思っています。やはり、最初から尺度を求めるのは難しいと思います。
仁平委員	学校の教育っていうのは、ある達成目標があってそこまで到達させていく教育の話と、要するに頭で覚えるということですが、それともう一つ、体験といか、皮膚感覚で体に染み込ませるといことで、少し違うと思うんです。客観的な評価軸があって、そのどこまでいったのか、ある程度ペーパーで測れるものと、社会の中での皮膚感覚みたいなものと、個人的な意見ですが、多分、皮膚感覚の方は、カウンセラーとか指導員とか推進員とかという形で、市のやるべきことに協力する一クラス上の人たちがやるというのは、今まであまり成功してないのではないかと思うんです。だから、具体的なものを体験させる、その中で今もっている農業の方や、そういった実際的な実務を持っている方たちと一緒にそこでやっていくという方が、私はこちらの方をより重視したいと思っています。
事務局	絵本というのは、学校に上がる前の子供たちを対象に気づかせようというものですか。
青木委員	特に幼稚園児向けの環境に関する絵本がないので、そこをターゲットにする。それと、子供が読むということは大人も一緒に読むので、そこで一緒に勉強してもらう。
事務局	幼稚園の先生に聞くと、小学校などでは授業に取り入れているようですが、幼稚園児には、気づくということを大切に環境問題を教えた方がいいと聞いたことがあるので、気づかせるという視点の本なのかなと思います。
青木委員	幼児向けということにすることで、柔らかい観点からの環境教育ができるのかなと思っています。
事務局	小学校等、次の段階で理解し、行動することにつながっていくのかなと思います。
岡田講師	他に何かありますか。とりあえずは、来年度に何を活動するのか。目の前のこととして、まず大きいことをみなさんと共有しようということと、予算が概算でどのくらいあればいいのかなということを整理することです。今日、終わらないことは宿題になってしまいましたが、活動フォーム計画自体はそんなに細かく書かなくてもいいと思います。
事務局	活動計画フォームについては、みなさん忙しい中で大変だと思いますので、事務局で受け止めさせていただきまして、きれいな形でペーパーベースにさせていただきます。そして、活動計画フォーム作成リーダーの方に投げかけさせていただいて、訂正等がありましたら、今月末くらいをメドにお願いできたらと思います。なるべく早く提供させていただきますので、こういうことでよろしいでしょうか。
岡田講師	では、活動計画フォームについては、事務局がまとめてくれることになりました。次回のワークショップについての現時点の雰囲気ですが、具体的に、Uブランド選定委員会をやるはずですが、これに対して、誰が、人だとすれば何人くらい必要なのか、お金がどれくらいかかるのかを、概算ですがみなさんとまた検討していかなければならないのかなと思いますが、活動計画フォームはこのまままとめますか。
事務局	事務局の方でまとめます。
岡田講師	では、この続きは事務局の結果を受けて、次回はもう少しコストとか実現性の整理ですね。
事務局	活動計画フォーム については、イメージだけ持っていればと思います。
岡田講師	今日のワークショップは以上で終わりたいと思います。
三宅委員長	ありがとうございました。それではまた会議の形に戻りますが、次回は11月10日午後6時にこの場所での会議を予定しております。その他、みなさんの方から何かございますか。
	特になし。

三宅委員長	それでは次回，プランについてもどんどんまとめ上げていくことでよろしいでしょうか。それでは，以上をもちまして第3回環境パートナーシップ設立準備会を閉会したいと思います。ありがとうございました。
閉会：午後8時50分	